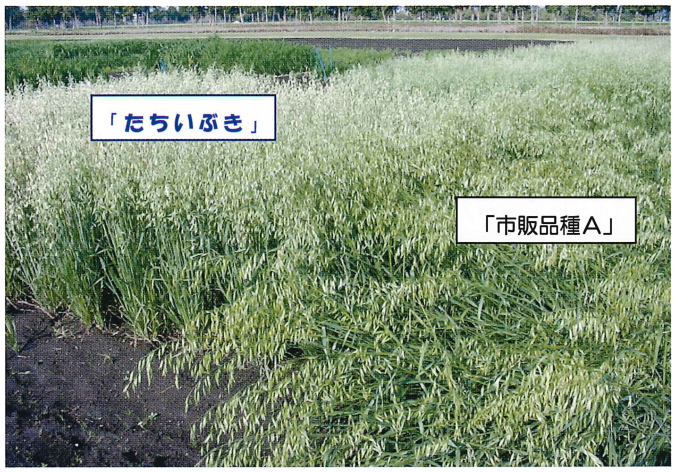
登録品種　海外持出禁止
（公示（農林水産省HP）参照）

耕畜連携

「飼料」と「サツマイモネコブセンチュウ抑制効果」

極早生えん麦「たちいぶき」

夏播き栽培での「たちいぶき」の草姿
＊８月下旬～９月上旬播種で年内多収



耐倒伏性に優れる「たちいぶき」

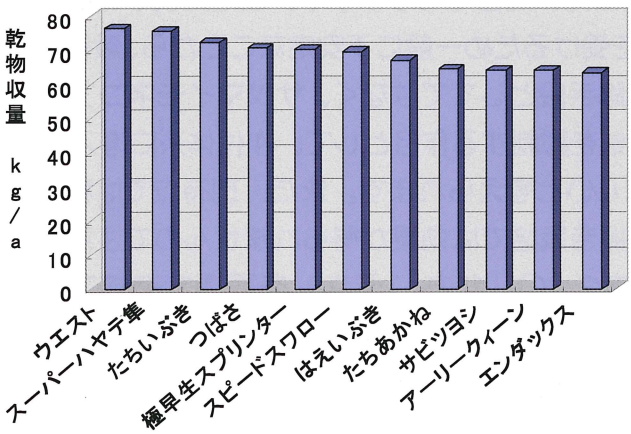


図１．夏播き栽培における乾物収量

○「たちいぶき」の特長

＊多収
＊耐倒伏性良好
＊冠さび病抵抗性「極強」
トウモロコシ、早期水稲後の秋作に最適

栽培適地　関東以西

○播種期と播種量

・西南暖地の播種適期は８月下旬～９月上旬、霜害回避のため９月末～10 月中旬の播種避ける。
・播種量は 10ａ当たり６～８㎏が基準、播種後は軽い表層ロータリーで覆土後に鎮圧する。

○施肥量

・10ａ当たり堆肥２～３ トン、苦度石灰 60～100 ㎏、三要素を成分で 7～10 ㎏を目安とする。

○収穫期

・飼料用は乳熟期を目安にする。

一般社団法人　日本草地畜産種子協会　03-3251-6501

えん麦「たちいぶき」　サツマイモネコブセンチュウ抑制効果

下記の写真の通り、えん麦の夏播き栽培に用いる品種がサツマイモの収量や品質に及ぼす影響は明らかです。　（立石ら　平成１８年度　九州沖縄農業研究成果情報）

新規特性：サツマイモネコブセンチュウ抑制効果

「たちいぶき」を夏播き栽培で作付けすると、圃場のサツマイモネコブセンチュウの密度が低下します。年内に収穫し、翌春、その圃場にサツマイモを栽培すると、上記の写真のような差がみられました。サツマイモネコブセンチュウの増殖を抑制することを目的とした栽培での利用が考えられます。　注意）夏播き栽培による線虫害抑制効果は、殺線虫剤処理と同程度に高い場合もありますが、栽培環境下の様々な要因の影響を受けるため一般に不安定なことから、殺線虫剤に代わる防除手段としてではなく、サツマイモネコブセンチュウの蔓延を抑制する作目として、作付体系に導入することが望ましいと考えられます。また、現時点では秋播き栽培及び春播き栽培では効果が得られませんので注意が必要です。

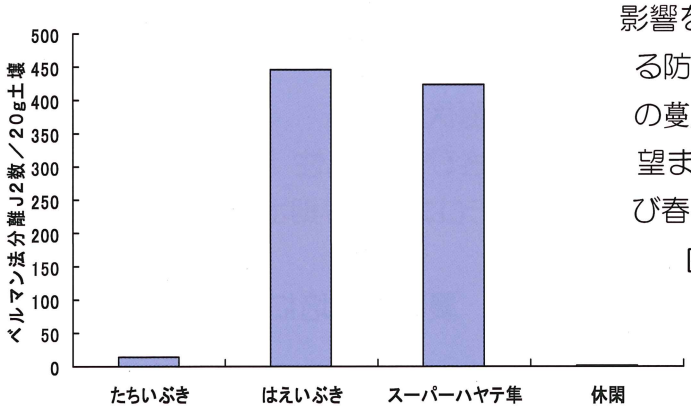


図2. エンバク栽培後のサツマイモネコブセンチュウの密度

図２．○「たちいぶき」を夏播き栽培で作付けすると、土壌中のサツマイモネコブセンチュウの密度が低下します。

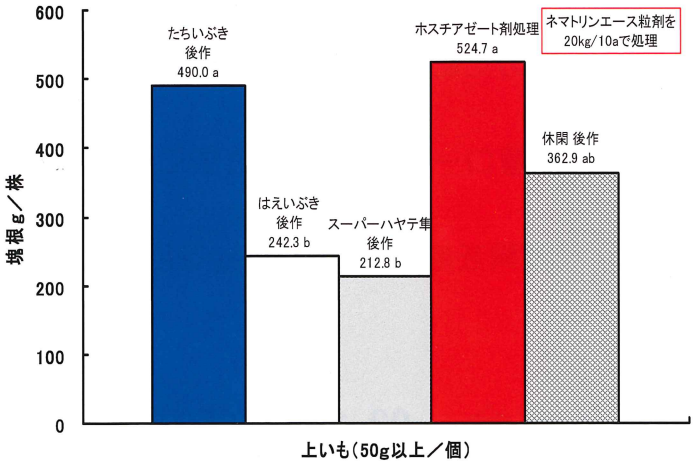


図3.　夏播きエンバク後作サツマイモ「高系14号」の塊根収量品質の比較

図３．○「たちいぶき」の後作では、上いもの収量は殺線虫剤を処理した場合と同程度の収量性を示しました。

【育成機関】お問い合わせ先：
（独）九州沖縄農業研究センター
飼料作物育種グループ
TEL　096－242－1150